農園を訪ねて ＜その 1＞

株式会社国際農業開発 南足柄農場

我々はこれまで国際技術協力に携わる傍ら、「日本の地域や農業にどのように関われるのか？」ということを常に考えてきた。そして機会を見つけては、目新しい取り組みをしている農園を訪問し、多くのことを学んできた。不定期である本連載では、これまで訪問した農園の紹介をしながら、感じたことについて書き綴ってみようと思う。今回、神奈川県南足柄市にある株式会社国際農業開発の農園を取り上げる。我々と交流のある一般財団法人国際開発センターの方々からのお誘いを受け、定期的に行われているというみかんの収穫作業のお手伝いに取り組んだ。

国際農業開発は、政府開発援助に長年携わってきた黒柳氏が仲間と「自分たちが作ったコメで酒を造り、それを自分たちのレストランで飲もうではないか」という夢を抱き、2016 年 1 月に設立した。主な事業内容は、農業生産・販売、農業体験、人材育成、コンサルタント等である。南足柄市に 15 カ所の農場があり、全体規模は約 40,000 ㎡である。今回我々は、その 15 カ所の内、2 つの拠点である、南足柄市怒田にある広さ 1,115 ㎡のみかん農園と 1,000 ㎡の野菜畑を訪問した。

当農園は、丹沢山地と箱根山の外輪を見ることができ、富士山と丹沢山地を源流としている酒匂川が流れ、南の相模湾からは温暖な海風が吹き込む、豊かな水と温暖な気候に恵まれている。この地域で、国際農業開発は米、野菜、果樹、しいたけ等の生産・販売活動をしている。

今回訪問したみかん農園は、温州みかんを慣行農法で栽培している。富士山が見える、水がきれい、温泉があるという点が、南足柄を生産拠点として選んだ理由だと黒柳代表より詳説があった。そして、農業は地域に根差してはじめて成り立つ、そのために地域に貢献することが大切だということ、さらにその先に、全国・海外展開を通した地域貢献も考えているとの説明もあった。この代表の想いを聞いた上で、みかん収穫作業に取り組んだことから、ただのお手伝いとしての収穫作業以上のやりがいを感じることができた。

今回のみかん収穫作業は、いわゆる観光農業のようなプログラムとは違うが、誰でも容易に作業できるように、行き届いた準備がされていた。収穫後は、大きさ別に選果し、木箱に詰めて、貯蔵庫へ搬入し乾燥させる。これらは会員制宅配サービスや地域のマルシェへ出荷されるとのことである。お昼休憩では、各農場の生産活動の結晶である、おにぎり、イチジク、そして有機栽培の野菜が入った豚汁、ミニトマト、みかんの手絞りジュース等が用意されていた。事前説明から、収穫作業、休憩時間までもが充実しており、すべての作業を終えた後は達成感があった。さらに、みかんや他の農園で収穫されたイチジク、トマトを袋一杯にもらえて、最後まで楽しむことができた。

「南足柄を楽しむ」を出発点とし、農地が快適で楽しい空間となるよう、生産機能にとどまらない農地の機能を活用することで、地域の農業の価値を高め、それが農地を守るきっかけにも、南足柄への魅力の発見にもつながっているのだと感じた。帰りの道中では、黒柳代表の案内で、1,000 ㎡の野菜畑の見学もさせていただいた。畑や農道は、黒柳代表が自ら開墾、整備したとのことで、農園にかける並々ならぬ熱意を改めて感じた。

夢を核として、農場で働く生産者、友人知人や地元・地域の支援者、応援してくれるファン、そして南足柄の豊かな自然資源が、農を通してうまくつながる取組みや工夫には感銘を受けた。また作業を通じて得られる達成感や発見、交流、味覚や、「食」と「農」の醍醐味の伝え方等、我々の志向する地域おこしの実践に向けて多くの学びを得る訪問となった。

みかん農園にて黒柳代表による挨拶と作業説明の様子